

わくわくやまだい学級プロジェクト

	代表者	白羽	千翔 (経済B3年)			
構成員	光武	愛実 (経済B3年)	金粕	伸幸 (経済B3年)	後藤	拓哉 (経済B3年)
	小嶋	祐加 (経済B3年)	田村	侑香 (経済B3年)	倉光	大登 (経済B2年)
	大塚	健太郎 (経済B2年)	安井	将悟 (経済B2年)	宮崎	雄麻 (経済B2年)
	後藤	和也 (経済B2年)	嬉野	希 (経済B1年)	山下	雄己 (経済B1年)
	小川	瑛里香 (経済B1年)	森田	千晴 (経済B1年)		

1. 前期活動概要

山口大学男女共同参画推進室と女性研究者支援室が教職員の仕事と生活の両立支援として、小学校の夏休み期間中の学童保育を7月21日から8月31日まで行った。利用者は小学1年生から小学6年生で、朝8時30分から夕方17時30分まで学童保育は行われていました。そこで、わたしたちは学童保育を受けられた小学生の皆さんに、山口大学ならではの体験をしてもらい、ほかでは経験できないような企画の立案を行った。その後、私たちが作成した企画書をもとに職員の方と連携をし、最終的に7つの企画をこの学童保育期間中に実施することができた。以下、実施した企画の概要と結果の報告を行う。

2. 前期企画内容

2-1 企画名：宝探し

実施日：8月12日

実施場所：教育学部棟の中庭

実施時間：10:00～11:00

企画概要：2チームに分かれて実施し、クイズの書いた紙(宝)をみつけて、そのクイズに正解すると得点が入るゲーム形式

<実施して気づいたこと、反省点>

- ・ 天気が雨だったので、傘をさして実施したが、宝探しに夢中になりすぎて傘をささずに走り回る児童がおり、風邪をひかないか心配だった。
- ・ 2チームに分かれて実施したが、個人個人で宝を見つけることに必死だったり、見つけたクイズをチームのメンバーと共有せずに全部自分で解いてしまったり、宝を見つけられなかった子は面白くなさそうな場面があった。ねらいとしては「みんなで協力」ということだったのですが、初めにそのコンセプトを子供たちにしっかり伝えられなかったことが反省点。
- ・ 全体的に、企画が大まかすぎたことは一番の反省点。企画書の内容も担当の保育士さんに伝わっておらず、それを自分がきちんと説明せずに始めてしまったので安全面などにおいても不十分だった。

<改善点>

- ・ 当日の天候のことを考え雨天時でも可能な屋内でできる遊びを考えたり、そうした場所を確保したりしておくべきだった。
- ・ 最初に、「みつけた宝のクイズはチームのみんなで答える」などねらいに沿ったルールを設けておけばよかった。

2-2 企画名：AMO とダンス

実施日：8月18日

実施場所：学童保育実施場所

実施時間：10:30～11:00

企画概要：山口大学のダンスサークル AMO の学生が児童の前でダンスを披露し、その後、簡単な振り付けを児童に教えて、一緒にダンスを踊る。

<実施して気づいたこと、反省点>

子どもたちの人数は少なかったが、和気あいあいとした雰囲気で行えた。踊りを披露している際に、学生

スタッフが手拍子をして盛り上げ、子供たちも一緒に手拍子をしながら笑顔でみてくれたことがよかった。みんなで踊る際にも児童が一生懸命振りを覚えて、楽しそうに踊っているのがとても印象的だった。反省点としては、全体を通して楽しくできたが、流れや手順などを事前にきちんと計画できておらず、スムーズな進行ができなかった部分があった。

<改善点>

上記の反省点から、企画を実施してくださるサークル側との連絡をもっと密に取る必要があった。こちら側から趣旨を詳しく説明し、実施内容に関しても詳しくサークル側から説明していただいた上で、うまく連携して活動を実施することが必要だと考えられる。また活動場所に向かった際に、指定されていた場所からドアが開かず、サークル側の方が戸惑われたということがあった。以上のことから、今回の企画に関しては、双方の連絡不足が一番の問題点であった。

2-3 企画名：よさこい体験

実施日：8月19日

実施場所：学童保育実施場所

実施時間：14:00～15:00

企画概要：よさこいの踊り方のレクチャー、その後学生と児童と一緒に踊る。

<実施して気づいたこと>

児童は鳴子に興味津々だった。よさこいを踊ったことがある児童が何人かいて、その話をしてくれた。簡単な曲をレクチャーしたため、学生の想像以上に踊ることができていて、児童も覚えようと一生懸命取り組んでいた。企画終了後、学生が帰るときに児童が何度もばいばいと言ってくれたので、やってよかったと思った。

<改善点>

場所が少し狭かったのもう少し広い場所のほうが、子どもがのびのび出来ると思った。

2-4 企画名：資料館見学

実施日：8月21日

実施場所：商品資料館・埋蔵文化資料館

実施時間：10:00～12:00

企画概要：資料館見学、展示物の見学を行い、常駐の職員の方に資料の解説をしてもらう。

<実施して気づいたこと、反省点>

商品資料館では、陶磁器・ガラス展示室を見学した。明治、大正時代の食器などに興味を持ち、「テレビで見たことある！」といった声が聞こえた。また、現在の1円の価値と昔の1円の価値の違いを説明したが、価値の違いの説明は小学生低学年には難しすぎると感じた。埋蔵文化資料館では、施設の方に展示品や歴史、平井地区の特徴などを説明していただいた。その話は児童（特にまだ歴史を勉強していない低学年の児童）に難解な内容であったが、終始静かに話を聞くことができていた。見学終了後に児童に感想を聞いたら「疲れた！」と言っており、内容が難しかったとわかった。(図1)



図1 賞品資料館での見学風景

<改善点>

商品資料館は見学時間が短かったと感じた。1時間ぐらいが妥当な時間であると推測される。今回は予定が合わず施設の方からの説明がない見学になった。施設の方の説明はあったほうが理解も深まると思った。商品資料館は展示物が多いのでまだまだ面白いことができると思う。埋蔵文化資料館は内容の難しさを感じた。施設の方の説明は大学生にとっても勉強になることで歴史を学んでいない小学生低学年にはレベルの高い話であったと思う。施設の方も配慮してかみ砕いて話していたが事前に内容の検討があると感じた。

資料館見学は子ども達も楽しめており良かったと思う。また、見学方法を変えることで様々な楽しみ方ができる可能性があると考え。山口大学ならではの学童保育プログラムに活用できる山口大学の資源と感じた。

2-5 てくてくキャンパスツアー

実施日 : 8月26日

実施場所 : 学内 (企画概要に詳しく記載)

実施時間 : 10:00~11:00

企画概要 : 山口大学の学生団体「てくてくキャンパスツアー」と協力して、学内の散策を行う。コースは教育学部棟集合→蛍の育成場所(共通2番教室の地下)→学内ビオトープの順で解説やクイズなどで児童に学内施設を案内する。

<実施して気づいたこと、反省点>

当日は快晴で、絶好の企画日和ではあったが、熱中症対策のためにいつも以上に水分補給のアナウンスを行わなければならないほどだった。また、台風の通過後すぐだったので、木の枝や葉っぱがたくさん落ちており、足元にも十分注意しなければならなかった。

児童の反応はよく、蛍の幼虫をツアー中に見せてもらったときはみんな所見であったことも含め、とても興奮していたように見えた。

企画担当者はツアーを行った経験がなかったので、ほぼてくてくキャンパスツアーに所属している学生に内容を考えてもらったので、せっかく企画担当者なのだから、自分のしたいことをもっとてくてくツアーの学生と話し合いを行い、取り込むようにするべきだった。(図2)

<改善点>

大学の資源(てくてくツアー、学内ビオトープ)を有効に使えているという点で内容自体はとても良かったように思える。しかし、反省点でも書いたように、企画担当者(プロジェクト構成員)の考えをもっと練っていくべき多度思った。



図2 学内ビオトープで蛍の幼虫のエサ(カワニナ)を探している様子

2-6 パソコン教室

実施日 : 8月27日

実施場所 : 学童保育実施場所

実施時間 : 13:00~15:00

企画概要 : パソコンの仕組みについて、理学部の学生と協力して、児童に教える。パソコンの液晶画面はどうやっているんな色を映しているのか、光学式マウスはなぜ動くのかなど、スライドや簡易の模型を使って学んでいく。

<実施して気づいたこと、反省点>

学生スタッフに集合場所をしっかりと伝えられていなかったことや、準備に時間がかかってしまい開始時間が遅れた。

マウスの動き方、タッチパネルの原理などは実際のパソコンを使って説明したところは、児童も想像しやすいのか、理解しているようだったが、液晶画面の解説(光の三原色)、スイッチで電源が切り替わる等の解説の場面では難しすぎたのか、理解していないようだった。時間も2時間と長めではあったが、どの話も児童たちはしっかりと聞いていた。(図3)

<改善点>

実施日に来ていた児童は1~6年生とかなり幅広い年代であったので、理解できること、できないことに学年ごとにバラバラで、スタッフの補助を幅広くしておくことが必要。

また、学年に偏りがあれば、それに準じた内容(低学年中心なら基礎、高学年中心なら応用)にしておく必要がある。



図3 絵の具を使って色の三原色、ライトを使って光の三原色を実際に作っているところ

2-7 ペットボトルロケットを飛ばそう

実施日 : 8月31日

実施場所 : 学童保育実施場所

実施時間 : 14:00~17:00

企画概要 : 児童保育場所で一人一つずつペットボトルロケットを作成し、完成後実際にサッカーグラウンドに出てみんなでロケットを飛ばす

<実施して気づいたこと、反省点>

まず、実施時間が大幅にオーバーしてしまったことが反省点にあげられる。予定時間は14:00開始、15:00終了の予定だった。作成の時点で15:00は過ぎていたので、かなりの目算ミスであった。原因として、学生が考えていた以上に凝ったものを児童は作ってくれたので、時間がかかったこと、集中して一人一人作るというより、楽

しみながらみんなで作るような雰囲気だったので、時間がオーバーしてしまったことが考えられる。また、発射のときにも、誰のペットボトルロケットが遠くまで飛ばせるか競争するため何回もペットボトルロケットを飛ばしたので、終了時刻が伸びてしまった。しかし、児童・学生ともに楽しんで企画を行うことができた。(図4)
<改善点>

やはり、時間の見直しをしないとイケない。このように、作成からの実施のような体験型の企画は最低でも2時間は時間を確保しなければならない。また、今回は使わなかったが、カッターナイフ等けがをする危険性が高い道具を使うときは十分な注意をしなければならないことがわかった。



図4 ペットボトルロケットの作成風景と実際にペットボトルロケットを飛ばしている風景

3. 前期まとめ

前期は夏休みの学童保育という大きなイベントがあったので、目標に向けて計画を立てやすかったが、後期はどうなるかわからない。(冬季の学童保育も予定として実施が考えられているそうだが、私たちがまた実際に企画を持ち込めるかどうかはわからない)なので、後期からは冊子作りを最大の目標とし、早め早めに計画をしていかなければならない。

また、どの企画も反省点が多数見つかったので、次回があればそれらを参考に生かしていかなければならないことも感じた。

4. 後期活動概要

前期同様後期も、山口大学男女共同参画推進室と女性研究者支援室によって、小学校の冬休み期間中の学童保育が12月25日から1月7日まで行われた。利用者は小学1年生から小学6年生で、朝8時30分から夕方18時まで。そこで、わたしたちは再び、学童保育を受けられた小学生の皆さんに、山口大学ならではの企画の立案し、今回は2つの企画の実施を3日に分けて行った。

5. 後期企画内容

5-1 企画名：消しゴムハンコでクリスマスカードづくり

実施日：12月25日

実施場所：学童保育実施場所（大学会館）

実施時間：10:30～12:00

企画概要：消しゴムハンコを作成されている学生団体の方と協力して、以前から作成されている消しゴムハンコを使って、A6サイズの画用紙にクリスマスをテーマに児童たちはクリスマスカードを作成した。そのときに、どのような工夫をしてカードを作ったのかなどを児童に訊ねたり、お互いどのようなカードを作ったのかみせあったりした。

<実施して気づいたこと>

それぞれの色のインクが混ざらないように、1回ハンコを押したら「学生スタッフにハンコを渡して、きれいにしてもらおう」というルールをきちんと守ってくれたので、一度注意すれば忘れずに守ってくれることが分かった。

<改善点>

低学年の児童たちは、ハンコを押すだけでも満足していたが、高学年になるほど飽きるのが早い気がしたので、学年別に企画を実施し、高学年向けに彫刻刀を使った消しゴムハンコづくり体験などを取り入れてもよかった。



図5 消しゴムハンコ体験

5-2 企画名：絵本のよみきかせ・福笑い

実施日：1月5日, 1月6日

実施場所：学童保育実施場所（大学会館）

実施時間：14:00～15:00

企画概要：年が明けてすぐの企画ということで、読み聞かせのほかに「特大福笑い」を手作りし、全員でチャレンジした。また、普通の絵本だけでなく、紙芝居や、ボードを使ったお話など、様々な工夫を凝らした企画を行った

<実施して気づいたこと>

質問を投げかけてみると一斉に答えてくれ、絵本に対する反応はどれもよかった。

しかし、福笑いはどの児童も飽きるのが早く、結局本来の遊び方ではなく、パーツをくっつけて別の形にしたり、目隠しをせずに面白い形を作ったりする遊びに代わってしまった。

<改善点>

- ・ 児童たちが飽きてしまった時にどう対応するか。
- ・ 勉強という点を考慮すると、読み聞かせの本の歴史や由来などの知識も教えてあげたほうが学習になると思う。



図6 福笑いの様子

6. 総括

最初は、自分たちの活動の場として学童保育の場を使用させていただいたが、実際に現場で児童たちを関わると、その純粹さに心が洗われた気がした。

子どもたちの個性はまさに十人十色で人懐っこい性格の児童がいれば、人見知りをする子どもたちなどたくさんいた。そのような子どもたちに合わせて、「どんな企画にすれば楽しんでもらえるか」「どうすることが一番安全か」など、様々な面で考えることができたプロジェクトだったと思う。

私たちの活動は、私たち自身がプロジェクトの企画すべてを行うのではなく、部活やサークル、その他自主活動などを行っている山口大学生に活躍の場として学童保育の企画に協力してもらった。故にプロジェクトを行う前よりも人間関係がかなり広がり、「つながり」という観点でも自分たち自身経験させてもらい、成長につながったと思う。

現在、プロジェクトを引き継げる人材がおらず、のちに続かない活動になってしまっている。学童保育自体は私たちのプロジェクトが行われなくても実施され続けるが、学生企画がなくなってしまい、好評をいただいていた保護者の方や、児童たちの為にも、学生を探して活動を続けていきたいと思う。

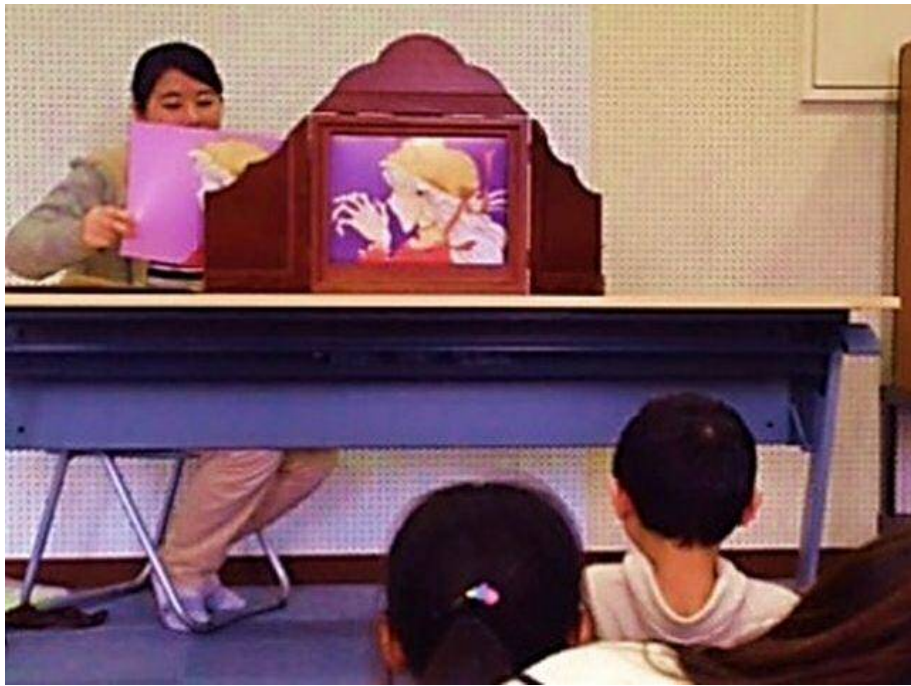
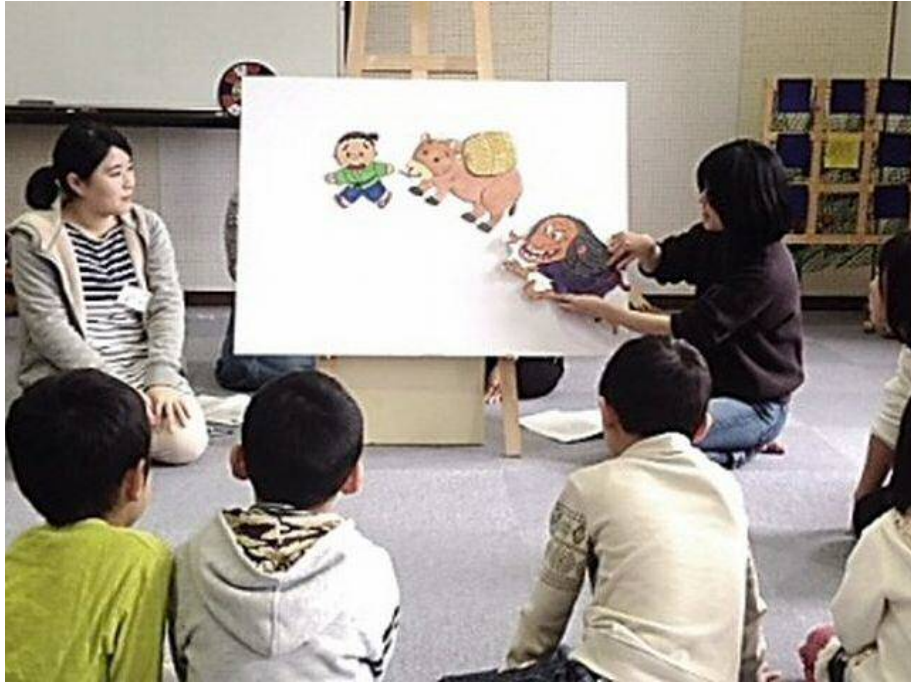


図7 その他の読み聞かせの様子